

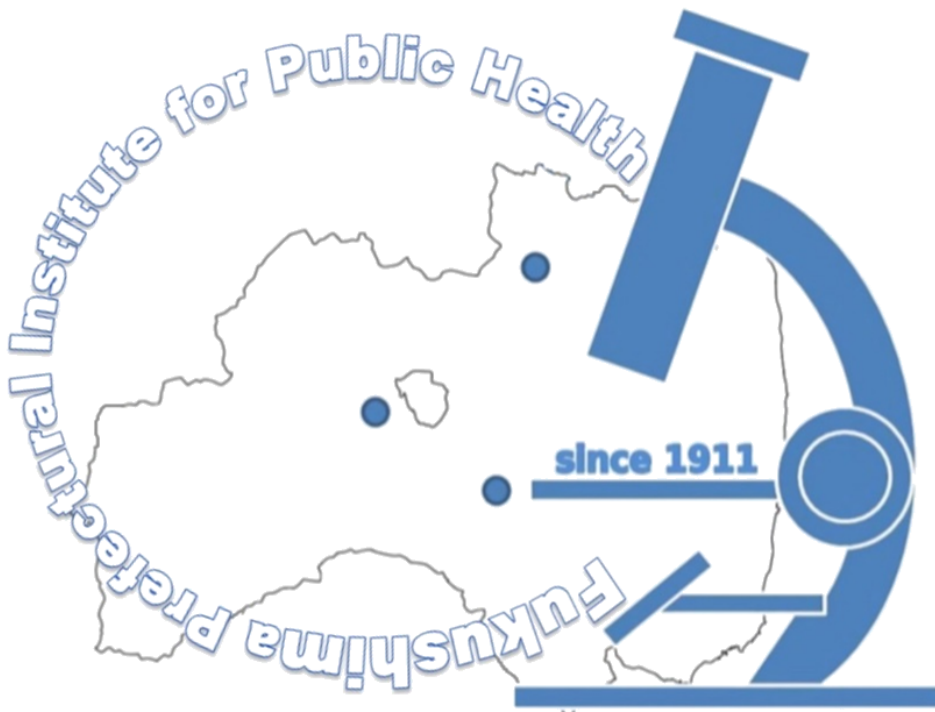
シン・所長の部屋

「衛生研究所」 について

2026年9月

～衛生研究所では、なにをしているのだろうか？～
その9

福島県 衛生研究所



Fukushima Prefectural Institute for Public Health

「衛生研究所」では、何をしているのだろうか？ の 第九弾 です。

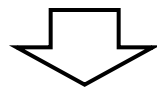
今回からは、
これまで衛生研究所で行われてきた
調査研究 について、
いくつか取り上げて、紹介させていただきます。

微生物課、理化学課、試験検査課 の3課6部門で、
多くの調査研究・学会発表を行っていますが、
今回は、
微生物課ウイルス部門の調査研究で、
「つつが虫病の状況」 についてです。

⇒ 「福島県衛生研究所年報 No.40、2022」からの抜粋

つつが虫病届出数 (2017~2022年)

	2017年 (447)	2018年 (456)	2019年 (404)	2020年 (538)	2021年 (518)	2022年 (481)
1位	鹿児島県 (77)	鹿児島県 (89)	鹿児島県 (66)	鹿児島県 (92)	鹿児島県 (76)	鹿児島県 (74)
2位	千葉県 (40)	宮崎県 (60)	千葉県 (46)	千葉県 (66)	千葉県 (70)	千葉県 (61)
3位	広島県 (38)	千葉県 (56)	宮崎県 (43)	宮崎県 (57)	宮崎県 (66)	宮崎県 (38)
4位	宮崎県 (33)	広島県 (27)	群馬県 (22)	神奈川県 (29)	岐阜県 (28)	広島県 (29)
5位	福島県 (30)	群馬県 (22)	福島県 (21)	岐阜県 (23)	青森県 (23)	神奈川県 (26)
		福島県(21) 6位		⋮	⋮	福島県(25) 6位
				福島県(14) 10位	福島県(16) 7位	



福島県は、全国でもつつが虫病の届出が多い県

つつが虫病とは

リケッチア という微生物

○病原体

***Orientia tsutsugamushi* (O.t.)**を保有するツツガムシ幼虫に
刺咬されることで感染

○臨床症状・検査所見

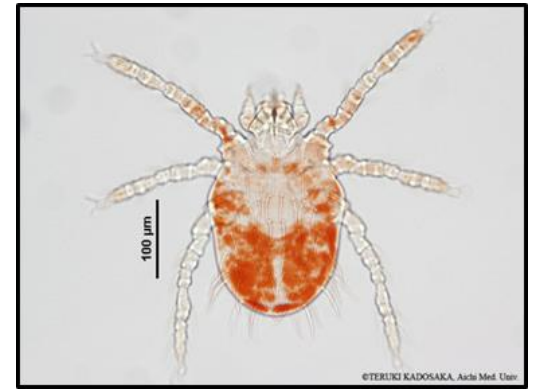
発熱、発疹、刺し口（痂皮）



主要3徴候

全身倦怠感、リンパ節腫脹、頭痛、食欲不振 など

CRP↑、AST・ALT↑、血小板数↓



○治療

テトラサイクリン系抗菌薬投与

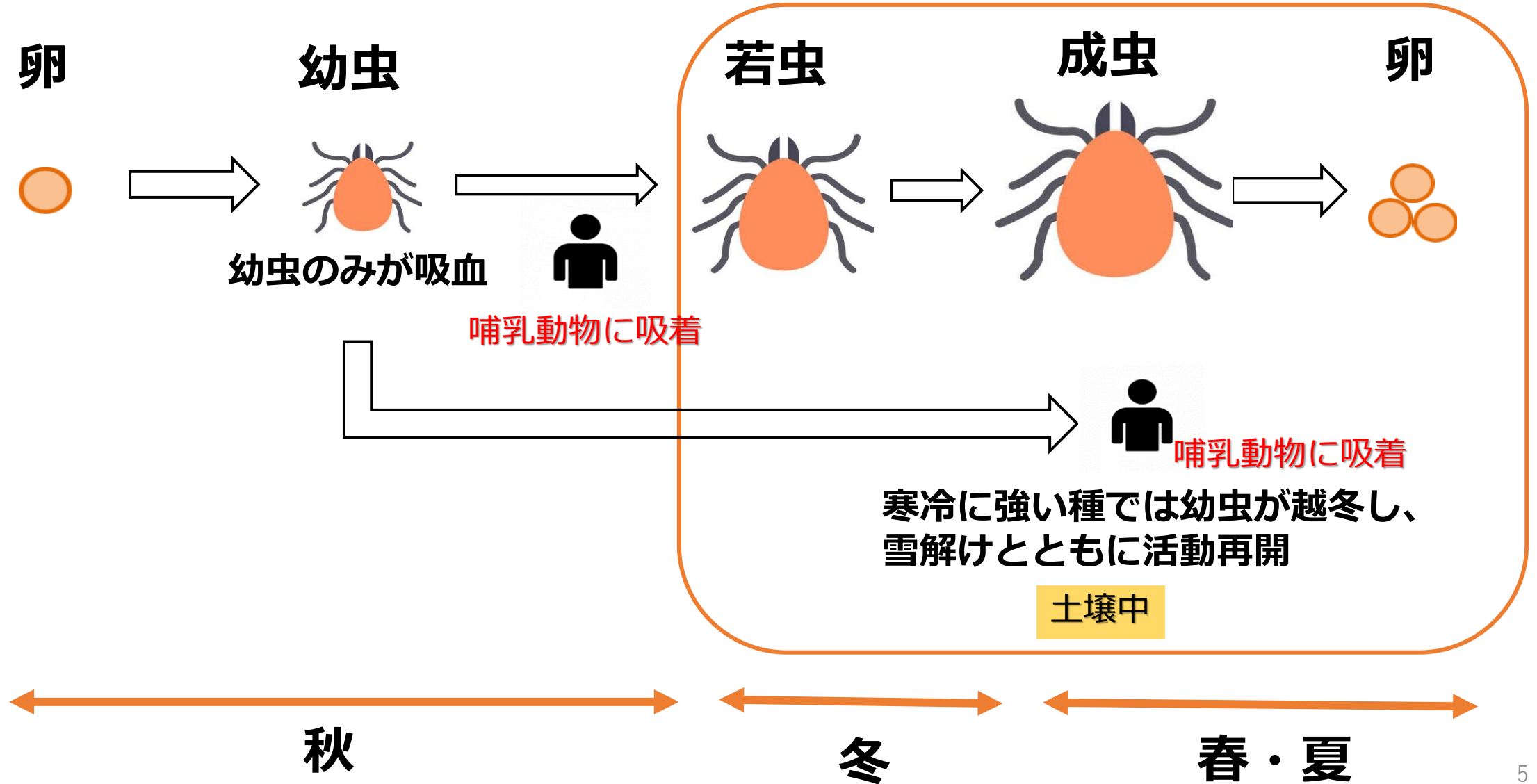
治療開始が遅れると、

播種性血管内凝固症候群（DIC）を発症し重症化



写真：愛知医科大学 角坂照貴講師より

ツツガムシのライフサイクル

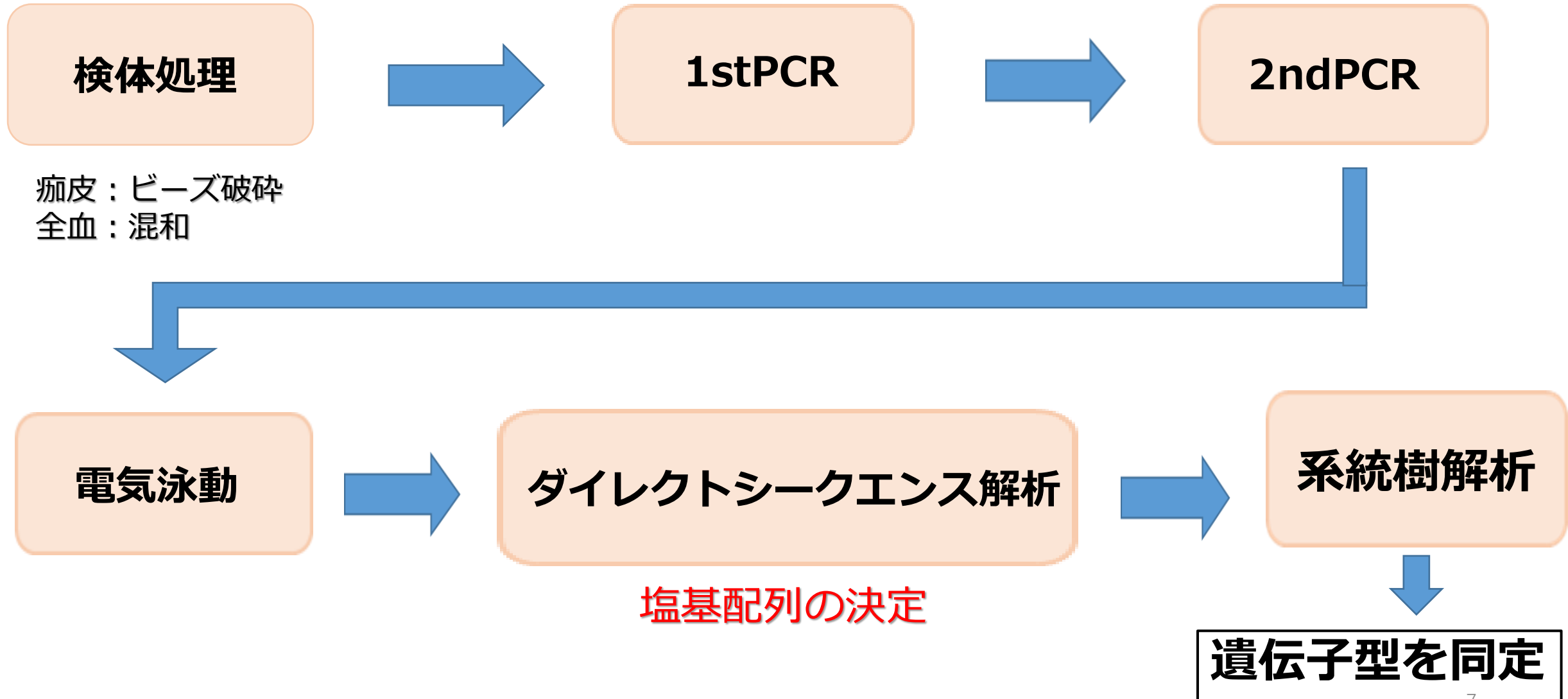


O.t.の遺伝子型と媒介ツツガムシ

遺伝子型		発生地域	媒介ツツガムシ
Kato型		北日本の一部	アカツツガムシ
Karp	JP-1型	全国	アラトツツガムシ
	JP-2型	全国	フトゲツツガムシ
Gilliam型		全国	フトゲツツガムシ
Kuroki型		東北南部から九州	タデツツガムシ
Kawasaki型		東北南部から九州	タデツツガムシ
Shimokoshi型		東北、北陸	ヒゲツツガムシ

- ◎ 遺伝子型により、媒介ツツガムシの種が異なる
- ◎ 地域毎にツツガムシの分布が異なる

つつが虫病 遺伝子検査



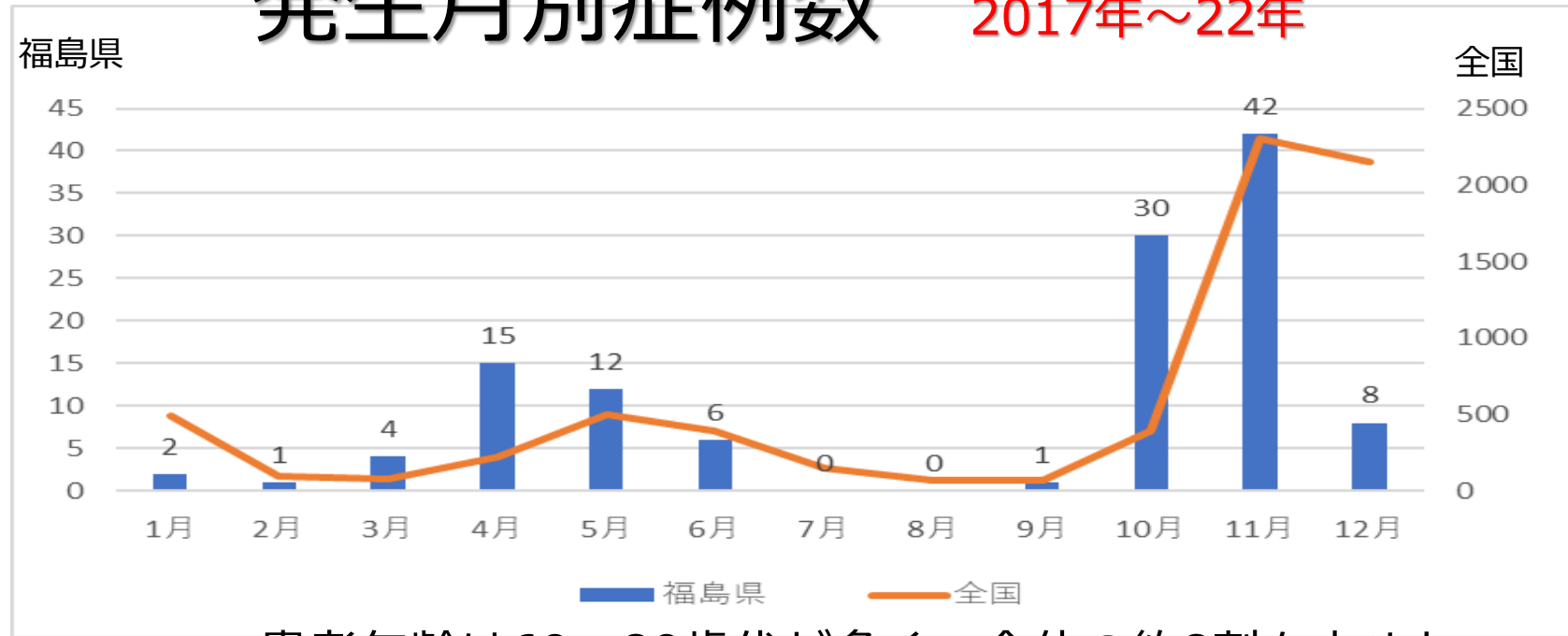
発生月別症例数

2017年～22年

症例数：121例

DIC発症：13例

死亡例：2例



◎患者年齢は60～80歳代が多く、全体の約8割を占めた

◎感染時作業内容は農作業 (43.0%) が最も多かった

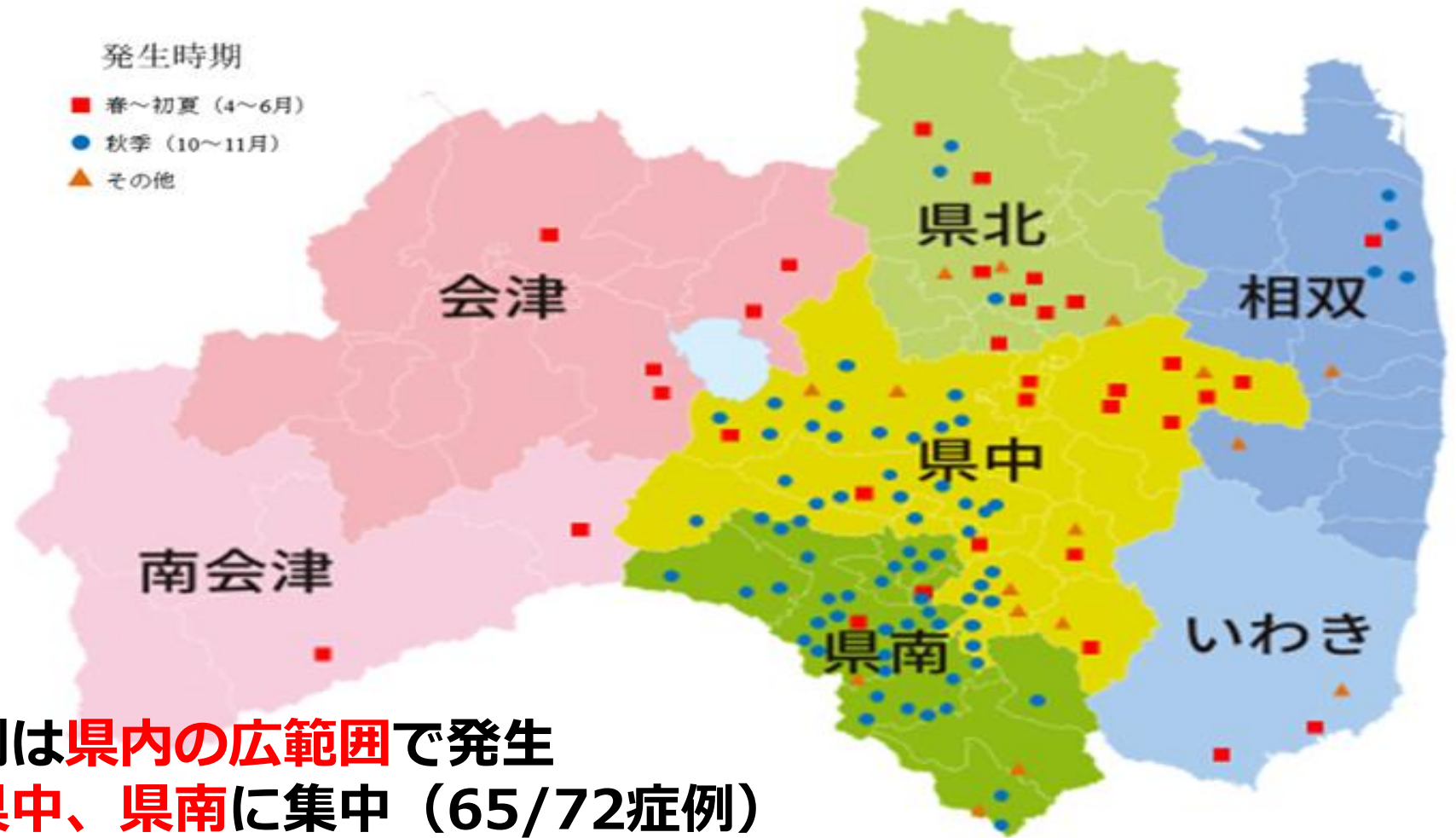
自覚症状と診察所見の相違

Baseline characteristics of patients with ST, central Japan, 2004–2015*

n=188 n(%)	主訴	問診	身体所見
発熱	135 (72)	148 (82)	132 (73) ※体温> 37.5℃
発疹	52 (28)	74 (44)	181 (96)
痂皮 (刺し口)	5 (3)	20 (12)	163 (87)

発疹、痂皮 (刺し口) は患者が自覚していない事が多い

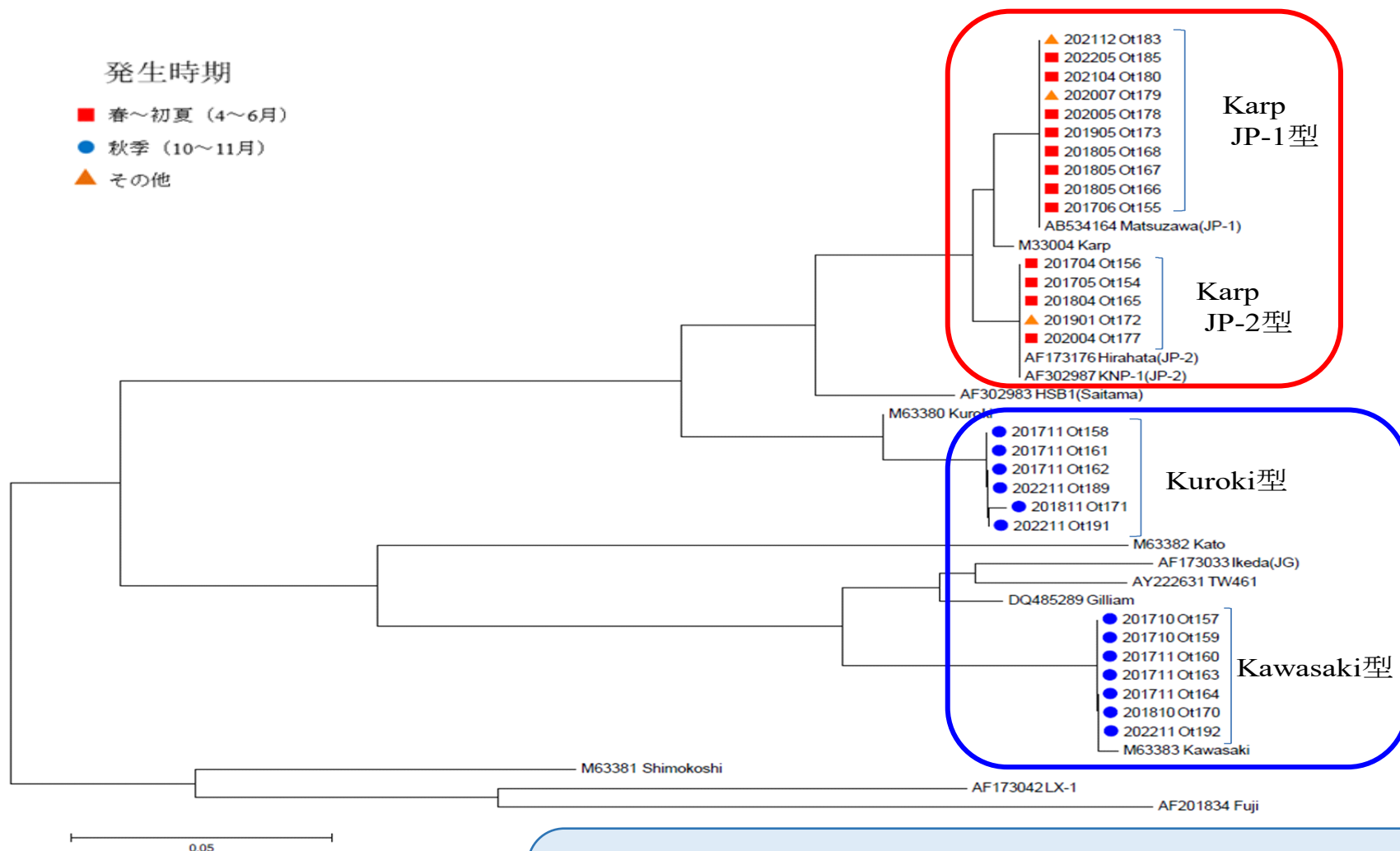
つつが虫病推定感染地域（2017～2022年）



- 春～初夏の症例は**県内の広範囲**で発生
- 秋季の症例は**県中、県南**に集中（65/72症例）

**県中地域、県南地域に、秋季の流行を媒介する
有毒ツツガムシがとどまり、ベクターと病原体の地域的集積が見られた**

56kDa外膜タンパク遺伝子系統樹



春～初夏: **Karp型**

秋季: **Kuroki型**
Kawasaki型

春～初夏の媒介種: アラトツツガムシ
フトゲツツガムシ
秋季の媒介種: タデツツガムシ と推定

地域別遺伝子型 (2017~2022年)

		県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
Karp	JP-1	3			5		1	1	10
	JP-2	1	1	2				1	5
Kawasaki			2	4					6
Kuroki			5	2					7
計		4	8	8	5		1	2	28

◎ Karp JP-1型、JP-2型は、**県全域から**検出

➡ **アラトツツガムシ、フトゲツツガムシは県全域に生息**

◎ Kawasaki型、Kuroki型は、**県中、県南地域から**検出

➡ **タデツツガムシは県中、県南地域を中心に生息**

まとめ

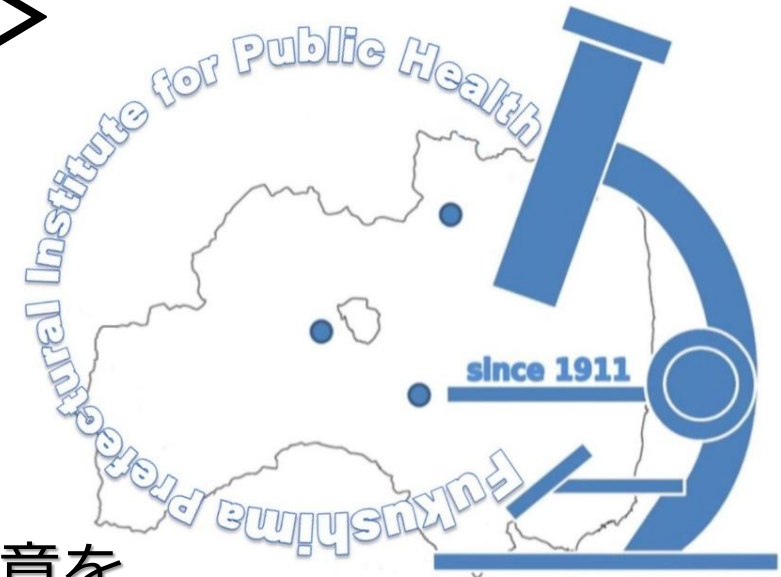
- ◎県内では、**春と秋の2峰性**のピークを認め、特に秋の報告数が多かった
- ◎**春～初夏の発生**は、県内広範囲からの報告があった
遺伝子型は、**Karp型**に分類され、**アラトツツガムシ**、**フトゲツツガムシ**が、媒介種であることが示唆された
- ◎**秋の発生**は、県中、県南地域からの報告が主であった
遺伝子型は、**Kuroki型**及び**Kawasaki型**に分類され、**タテツツガムシ**が、媒介種であることが示唆され、
ベクターと病原体の地域的集積を認めた
- ◎県内でも**地域ごとに**、流行期や媒介種に相違がみられた

今後も発生動向を正確に把握し、本県がつつが虫病の好発地域であることを地域住民や医療機関と共有することで、つつが虫病対策への意識向上や早期の医療機関受診を呼びかけ、重症化例・死亡例を防ぐことが重要

最近の感染症発生動向について

＜8月第4週 までの調査結果での特徴＞

- ・手足口病(夏型ウイルス感染症)の流行
⇒ 全国的な流行は継続
- ・**SFTS(重症熱性血小板減少症候群)**の発生に注意
⇒ **マダニ**に刺されないように
- ・つつが虫病の発生に注意 ～**好発期**
- ・全国的に、**インフルエンザA型**が増加～感染対策に注意を



現在のところ、世界的なパンデミックになりそうな感染症の報告はないが

- ・コンゴ民主共和国での**エボラ出血熱**の流行は継続 →**注意喚起**
⇒ 感染者は**5000人**を越え、死者も2000人を越えた。
⇒ 終息する目処はたっていない ～**検疫強化の継続**
- ・ウガンダでのエボラ出血熱は**終息**